

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 1

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	生涯学習推進事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	係長	
		氏名	高橋健仁		氏名	齋藤康志
事業の概要	様々な町民のニーズに対応し、講座や学習会を開催する。			全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 3,550 千円 事業費計 3,550 千円		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託	<input type="checkbox"/> その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
	単位施策	2 学習・スポーツ活動の推進				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	816 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円
	合計	816 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	的確な学習ニーズの把握とその支援	各学級・講座の開設数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	充実した生活の支援と学習の場の整備	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		① 生きがい大学(9/10) 紋別地区高齢者教室(1/1) 町民大学(4/4) 成人講座(2/3)	目標年度 20年度
			目標値 18
			実績値 16
達成度 88.9 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域の活性化	②	目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
① 生きがい大学・紋別地区高齢者教室	午前の部:講演(講師:道下俊一氏), 午後の部:演芸歌謡交流会 紋別地区社会教育推進協議会共同事業として企画・実施している。		
② 町民大学	全4回の講演会(1回目:ベトナムの子どもの家]を支える会代表 小山道夫氏, 2回目:紋別簡易裁判所判事 兵頭孝明氏, 3回目:アナウンサー喜瀬ひろし氏, 4回目:植松電機 専務 植松 努氏) 社会教育委員の会議で検討、実施している。		
③ 成人講座	ケーキづくり講座1回, 料理講座2回(町民ニーズにより実施)		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	生涯学習の観点から、多様な学習ニーズの支援は重要であることから当該事業の開催は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	学習者の参加意欲も高く、学習意欲が期待される。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	プログラムの内容を工夫し、色々なジャンルでの実施を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	一部の学級では、参加対象に制限(高齢者学級)を設けているが、実施事業ごとに判断している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 生涯学習への関心も高まっており、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持 生きがいのある生活を営むために多様な学習機会を充実する必要があることから、継続して実施することが重要である。		
---	--	--

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

- ①紋別地区高齢者教室交流の集い(紋別地区5市町村評価)・・・講演講師の高い評価を受けた。生涯学習の大切さを位置づける必要がある。
 ②成人講座(参加者アンケートより)・・・ケーキづくり講座での参加者の満足度は100%。

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 2

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		武雄市児童交流事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁			氏名	齋藤康志
事業の概要	児童を武雄市に派遣すること、武雄市児童を受け入れることによって、地域間交流を図っている。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)		
					国・道支出金	千円	
					地方債	千円	
					その他	1,800 千円	
					一般財源	8,200 千円	
					事業費計	10,000 千円	
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()				
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～					
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進					
	単位施策	3 青少年教育の推進					
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務				
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	390 千円	360 千円	360 千円	360 千円	360 千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	1,785 千円	1,640 千円	1,640 千円	1,640 千円	1,640 千円	
	合計	2175 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	異文化を知見することによる人間性の成長	派遣児童12名、引率者3名 受入児童16名、引率者4名		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	リーダー養成	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
		① 派遣児童及び引率者	目標年度	20年度
			目標値	15
			実績値	16
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	実施後の、学校生活及び家庭生活等でのリーダーシップ。	② 受入児童及び引率者	目標年度	20年度
			目標値	20
			実績値	20
		達成度	100 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①派遣	町内各小学校児童13名、引率者3名派遣。現地では学校交流やホームステイを体験。			
②受入	武雄市児童16名を受け入れ。学校交流やホームステイを体験。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	文化的・教育的な交流は、大変重要であり、当該事業の実施は子ども達の成長に必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	派遣児童にとって、雄武町とは違った気候や風土・生活習慣を知ることによって、豊かな人間性とたくましい心が養われ、将来のリーダーとして期待できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	平成17年度より現在の派遣人員(児童12名, 引率者3名)としており、コスト削減の余地は無い。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	学校長推薦としている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 子ども達は、異文化に触れることによって、成長を遂げており、事業後の学校生活において、その成果が表れているとのことを、学校より報告を受けている。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
武雄市児童交流事業を通して、教育的な面から期待ができ、将来の雄武町のリーダーとして養成する事業として継続していくことが重要と考えます。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 3

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	家庭教育推進事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	係長	
		氏名	高橋健仁		氏名	齋藤康志
事業の概要	休日拡大の伴い、地域や家庭における役割も増大しており、教育力の低下も叫ばれている中、子育てをする上でもっとも大切な場である家庭での教育のあり方等、学習機会の支援を行っている。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 2,000 千円 事業費計 2,000 千円	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 民間委託	<input type="checkbox"/> その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業	<input type="checkbox"/> 非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
	単位施策	3 青少年教育の推進				
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	291 千円	400 千円	400 千円	400 千円	400 千円
	合計	291 千円	400 千円	400 千円	400 千円	400 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	多くの学習機会の支援と情報の共有	学級数と参加者		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	家庭教育の充実に向けた、学習支援と家庭教育を支援する地域づくり	指標(指標計算式/解説)	目標年度	20年度
			目標値	13
		実績値	6	
		達成度	46.2 %	
		【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	家庭・学校・地域・関係機関とのネットワークの整備	②学級及び講演会参加者
目標値	300			
実績値	378			
達成度	126 %			
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①家庭教育学級の促進	雄武小学校6学級開設し、親子でレクリエーションや調理実習を行った。(各PTAの創意、工夫で実施している)			
②家庭教育講演会の実施	講演会(講師:旭山動物園副園長 坂東 元氏) (雄武町PTA連合会との協力のもと実施している)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	家庭教育は、乳幼児期などの親子のふれあいによる絆の確立、基本的な生活習慣、善悪の判断など全ての教育の原点となるものです。昨今、家庭の教育力の低下が指摘されており当該事業を実施しない場合、子ども達の成長に影響を及ぼす。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	家庭教育学級を開設したことにより、親子のふれあう楽しさが今一度再確認できた。家庭教育講演会では、生きる者という原点に立ち返り、子どもは一人では生きられないということを学び、親子のあり方を考える講演であり、対象年齢層以外の町民参加もあり、地域ぐるみで家庭教育を考えることができた。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	家庭教育学級では、経費の一部を補助しているが、実施にあたっての必要最小限の経費補助であり、削減につながれば事業の停滞につながる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

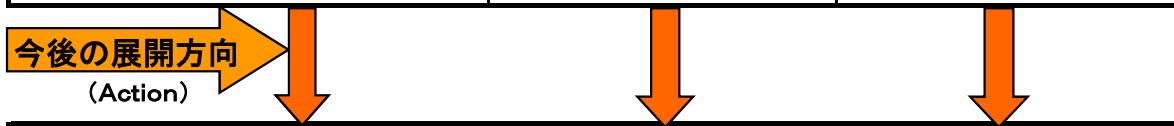
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	家庭教育学級については、開設学級の自主企画・自主運営としている。また、家庭教育講演会では、町民誰もが参加できるよう広く情報周知をしている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
生涯学習を推進する上で、学校教育・社会教育・家庭教育の連携は重要であることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
社会教育の重要な施策のひとつであり、あらゆる関係機関と情報を共有し、今後は地域ネットの整備を図り、継続した事業展開を図る。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 4

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		芸術文化公演事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係		
	管理職	職名	課長		作成者	係長	
		氏名	高橋健仁			氏名	齋藤康志
事業の概要	舞台芸術の機会が少ない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに、芸術への理解を深め地域文化の活性化を図るよう推進している。				全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)		
					国・道支出金	千円	
					地方債	千円	
					その他	300 千円	
					一般財源	13,075 千円	
					事業費計	13,375 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～					
	基本施策	14 芸術・文化の振興					
	単位施策	2 芸術・文化活動の促進					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	150 千円	千円	150 千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	1,156 千円	4,325 千円	1,475 千円	4,325 千円	1,475 千円	
	合計	1156 千円	4475 千円	1475 千円	4475 千円	1475 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	的確な学習ニーズを把握し、情報の提供と学習支援が必要である。	公演回数と鑑賞数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	芸術事業への興味・関心の促進。	① 公演回数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
						目標値 4
						実績値 4
						達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	芸術・文化への理解。	② 鑑賞者数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
						目標値 610
						実績値 734
						達成度 120.32787 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
①公演会の開催	保育所・及び小1～小2(人形劇), 小3～小4(観劇), 中学生(観劇), 高校生(和太鼓演奏)(各学校等の要望も取り入れた中で、実施している)					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	様々な分野の芸術は、より一層心を豊かに生活する上で重要であることから、当該事業の開催は必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	青少年の健全育成が図られ、地域の活性化が促進された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	毎年、色々分野を変えて実施し、多くの芸術に親しむよう工夫しており、事業費抑制のため、北海道巡回小劇場の申請を行っている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	20年度は青少年が主な対象のため、受益者の負担をしていない。2年に1度実施予定の公演会では、入場料の受益者負担を考えている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
芸術への関心も高まってきており、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
芸術鑑賞を通して、教育的・文化的な面からも期待でき、鑑賞及び発表機会の支援が重要である。今後もより良い芸術に親しめるよう継続して開催する。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

(保育士)・・・子ども達の反応も良く、楽しく観ていた。保育所内でも人形劇のことは、しばらく話題となっていた。
 (各学校教諭)・・・集中して観劇できた作品だった。学芸会の良い刺激になった。構成・演出も子どもには分かりやすかった。教室へ帰った後も、話題となっていた。学校祭で取り入れる要素がたくさんあった。和太鼓のワークショップも生徒達には、とても良いことだと思った。

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 5

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	陶芸推進事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	係長	
		氏名	高橋健仁		氏名	齋藤康志
事業の概要	陶芸という芸術文化活動を通して、子どもから大人まで幅広く親しむことができ、また世代間の交流事業等を図るよう推進している。			全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 3,800 千円 事業費計 3,800 千円		
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	14 芸術・文化の振興				
	単位施策	2 芸術・文化活動の促進				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	772 千円	760 千円	760 千円	760 千円	760 千円
	合計	772 千円	760 千円	760 千円	760 千円	760 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	陶芸愛好者による自立した活動へのシフトが不十分である。	年間利用者数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	陶芸工房管理人体制の現状維持と文化の伝承等活動の中核的な役割。	① 年間利用者数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
						目標値 600
						実績値 510
						達成度 85.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	陶芸文化の継続と文化的な活動の活性化。	②	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目標値
						実績値
						達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
①陶芸活動の推進	産業まつり、町民文化祭への作品出品					
②管理人配置	陶芸愛好者への指導(3名配置、週3日開放)					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	多種多様な芸術文化活動の場を支援することは、社会教育の責務であり、陶芸活動も徐々に根付いてきております。事業の継続は必要であり廃止となると、本町の芸術文化活動の衰退につながる。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	愛好者は若干ではあるが増えている。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的 効率的／概ね効率的 課題あり	判断の理由	施設に係る経費のみ予算計上しており、本町の中核的な役割を担っていることから、予算削減となれば停滞につながる。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	焼成用のガス代は、利用者負担としている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
生涯学習の観点に立った、社会教育の重要な施策であり、陶芸推進の振興・発展を図る上で、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
陶芸も徐々に根付いており、町民の芸術文化活動の推進・発展には町の支援が必要である。今後は利用者の自立を促すことが重要ではあるが、当面は現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 6

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	社会教育関係団体活動費補助事業					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	高橋健仁		氏名	齋藤康志
事業の概要	社会教育の推進中核的な組織(文化連盟・子ども会・PTA連合会)に対して補助を行い、地域の活性化を促進する。			全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)		
事業費	国・道支出金				千円	
	地方債				千円	
	その他				千円	
	一般財源				3,250 千円	
	事業費計				3,250 千円	
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 掲載事業	非掲載事業	優先度	B		
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
	単位施策	1 推進体制の強化				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円
	合計	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円	650 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	会員の減少も見られるが、20年度1団体新規加盟した。	3団体への補助		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域の活性化。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	20年度
		① 文化連盟 子ども会 PTA連合会	目標値	3
			実績値	3
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域コミュニティ(地域力)の拡大。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①団体補助	文化連盟320千円、子ども会230千円、PTA連合会100千円 (補助団体より実績報告書等の提出を求め、内容を精査し助成している)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	社会教育関係団体への活動支援は重要であり、団体の活性化につながるのと同時に、町の活性化を図るためにも必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	会員数の減少も見られるが、各団体において各種主催事業・発表会や研修会等にも参加しており、自覚と責任も芽生えている。また、文化連盟においては、新規に加盟した部会もあり、期待する効果が得られた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	各団体とも活動するにあたって非常に厳しく、削減となれば停滞する恐れがある。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

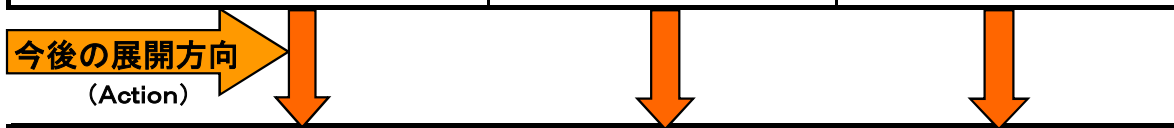
(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	実績報告等を勘案して補助交付している。各団体の事業については、広く町民に窓口を広げて、参加促進を進めている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
社会教育関係団体への補助は、地域の活性化が図られ、社会教育を推進する上で、教育面・文化面からも期待できる。		



継続／現状維持		
各種団体の活性化無くして町の発展は考えられず今後も活動費の補助については、継続していくことが重要である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 7

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	読書促進事業					
評価者	担当課名	社会教育課	担当係名	社会教育係		
	管理職	職名 課長 氏名 高橋健仁	作成者	職名 係長 氏名 齋藤康志		
事業の概要	多様な学習目的と複雑かつ高度化する学習ニーズに対応するため図書の整備を行う。			全体計画 (平成 20 年度～ 24 年度)		
				国・道支出金	千円	
				地方債	千円	
				その他	千円	
				一般財源	20,250 千円	
				事業費計	20,250 千円	
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)	■ 登載事業	非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
	単位施策	4 図書サービスの充実				
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	2,650 千円	3,650 千円	4,150 千円	4,650 千円	5,150 千円
	合計	2650 千円	3650 千円	4150 千円	4650 千円	5150 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	図書館の利用者が少ない。	蔵書冊数2,600冊, 町民一人あたり年間貸出冊数10冊		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	多くの町民に、本に親しんでもらうことを目指す。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
		① 蔵書冊数	目標年度	20年度
			目標値	2600
			実績値	2114
達成度	81.3 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本のすばらしさや、図書館を身近に感じてもらおう。	② 年間貸出冊数	目標年度	20年度
			目標値	10
			実績値	4.7
		達成度	47 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①蔵書冊数	今年度購入冊数1904冊, 寄贈図書210冊 (必要蔵書本の購入及びリクエストに対応している)			
②年間貸出冊数	町民一人あたり4.7冊			
③ブックスタート	6・7か月の健康相談の時に、職員及びボランティアによる読み聞かせを行っている。 併せて、絵本2冊、子育て本1冊、コットンパックを贈呈(1セット1,100円程度)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	公共図書館として町民の学習ニーズに支援することが重要であり、当該事業を実施しない場合は、人間形成に大きな影響を与える。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成状況	利用者のリクエストに大部分対応することができるようになったが、価格的な問題もあり、予定冊数に達しなかった。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	5カ年で蔵書50,000冊を目標に計画的に進めているところであり、削減の余地はない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

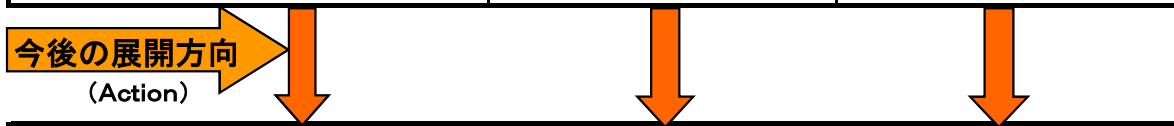
(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	利用者のニーズを把握するとともに、リクエストも積極的に受け入れるよう配慮している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
今後は、目標値の達成に向け、整備努力する。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
50,000冊の蔵書を計画的に進めるため、現状維持が適当である。		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書 (平成 20 年度事業)

整理番号 11 - 8

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名		図書館内・外自動ドア修繕					
評価者	担当課名	社会教育課		担当係名	社会教育係		
	管理職	職名	課長		作成者	係長	
		氏名	高橋健仁			氏名	齋藤康志
事業の概要	旧郵便局より移設し、施工22年が経過、各部の老朽化が激しく自動ドアの開閉が、現在の安全基準に適合しないため、修繕を行ったものです。				全体計画 (平成 20 年度～ 20 年度)		
					国・道支出金	千円	
					地方債	千円	
					その他	千円	
					一般財源	560 千円	
					事業費計	560 千円	
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～					
	基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進					
	単位施策	5 施設・備品の有効活用					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	560 千円	千円	千円	千円	千円	
	合計	560 千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	図書館	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	利用者の安全確保に支障が生じている。	自動ドア(内・外)の修繕				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	修繕することにより、安全に利用できる。	① 自動ドア(内・外)の修繕	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						20年度
						目標値
						2
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	安全基準に適合した。	②				実績値
						2
						達成度
						100.0 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
①自動ドア(内・外)の修繕	自動ドア(内・外)2枚の修繕完了。(保守点検業者に見積書を徴し、内容を精査し実施した)					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／ 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	管理者が修繕を実施することが妥当であり、安全を図る必要がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／ 課題あり	設定した目標値の達成 状況	安全が確保され、安心して利用できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／ 課題あり	判断の理由	見積額も適正であったため、効率的である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	


(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／ 公平でない	判断の理由	利用者の安全を確保できた。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 施設は、安心・安全が第一条件であり、修繕については適当であった。		

今後の展開方向 (Action) 	終了		

*展開方向の区分

- 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--